

会 議 要 旨

会議の名称	第4回川越市観光振興計画審議会
開催日時	令和4年7月21日(木) 午後2時 開会 ・ 午後4時 閉会
開催場所	川越市役所4階 4A会議室
会長氏名	立教大学名誉教授 溝尾 良隆
出席者(委員)氏名 (人数)	別紙委員名簿のとおり
欠席者(委員)氏名 (人数)	別紙委員名簿のとおり
事務局職員 職 氏 名	岸野部長、飯野副部長、田中課長、阿部副課長、徳田副主幹、 小淵主事
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 会議及び会議録の公開 4 議事 (1)第3回審議会以降に出された意見と対応について (2)意見募集の概要と結果について (3)答申について 5 その他 6 閉会
配布資料	次第、審議会名簿 資料1 第3回川越市観光振興計画審議会以降に出された意見と対応 資料2 第二次川越市観光振興計画改訂版(原案)に対する意見募集の概要と結果について 資料3 計画書改訂版(案) 資料4 答申書(案) 当日配布

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	議題 (1)第3回審議会以降に出された意見と対応について <資料を基に説明> 意見なし
事務局	議題 (2)意見募集の概要と結果について <資料を基に説明>
会長	観光だけでなく、スポーツなど他の分野が魅力的になれば、観光も良くなるので、頑張ってもらいたい。
委員	施策56「施設入館者のリピート促進」について、年間パスポートの作成だけでなく、コンテンツの更新や企画イベント等の実施に努めるという点がよい。 企画の内容について、例えば川越まつり会館であれば、山車の高さから見える景色を映像で投影する、太鼓の達人とコラボして、お囃子の演奏を叩けるようにするなど、まつりのライブ感を体感できる内容とするとよい。そうすることで、未来のお囃子の担い手を育てることに繋がるのではないか。
委員	計画策定後、どのような進め方で誰が実行するか。
事務局	今後予算編成の際の実施計画に記載をし、実行していく。計画書の施策に紐づく具体的な事業については、この後関係各課に照会を行い、施策に関連した事業の有無を確認する。その後、各課において定めた事業を実施していく。
委員	博物館や美術館は社会教育施設と修正されたが、実際にコンテンツの更新や企画イベントの実施を考えていく際には、文化財的な視点だけでなく、観光の視点も入れ、文化観光を推し進めてほしい。

会長	文化庁も今、観光の視点を入れていく方向に変わってきている。川越市も、教育委員会と一度話し合う機会を設けた方がよい。
委員	川越まつりにおいて、観光客が体験できるコンテンツを入れてほしい。
委員	蔵造りの町並みを再建する際は、当時の東京の日本橋や京橋を参考にしている。しかし、現在日本橋や京橋には蔵造りの町並みは残っておらず、川越は唯一江戸の町並みを感じる事が出来る場所である。安藤広重の江戸名所百景の絵では蔵造りが描かれている。蔵造の町並みを見に来る観光客には、こういった説明もしてほしい。
委員	施策 1 1「伝統工芸の活用」について、川越唐棧の後進の育成についても考えたほうがよい。 政策 1 - (5)「旅行業者、交通事業者との共同企画の開発」について、特にバスについて、消費者の声も含めて柔軟性のある対応があるとありがたい。 施策 1 8「郊外エリアへの誘客促進」について、移動手段の確保とあるが、特に伊佐沼についてはバス停が伊佐沼から遠く、アクセスが悪いといった声もあるため、移動手段の強化をしていただきたい。 政策 3 - (5)「観光キーパーソンの育成」について、外国語観光ガイドをボランティアで行ってもらうことはハードルが高いのではないか。もともと観光業は生産性が低く、観光業を目指す若い人が少なくなってしまうため、行政の観光業に対する認識を見直していただきたい。
委員	英語の通じる街実行委員会において、英語ボランティアガイドの育成を行っている。
委員	当委員会において、育成している英語ボランティアガイドについては、東京オリンピックを契機に始めたもの。現在約 230 名のボランティアガイドがいる。将来的にはいつでも蔵の町にボランティアガイドがいるという状態にしたい。

	バスについて、路線等については、データに基づいて決定している。昔は中高年の観光客が多かったため、喜多院を経由して反時計回りに回る方が多かったが、現在は若い観光客が多く、蔵造りの町並みから氷川神社に行くルートに変わってきている。バスの中でアンケート用紙等で消費者の意見をもらっており、バスの運行に役立てている。もし観光案内所等でも意見があれば、教えてほしい。
委員	施策１９「水辺空間のネットワーク化」について、蛍の放流などを行い、蛍の再生に取り組んではどうか。
委員	今までの審議会で出た意見とその対応の蓄積について、当改訂版ではなく、一覧でほしい。 関連して、前回の審議会で話した、入込観光客数について、男女比が逆転してしまったのは使用者情報ではなく契約者情報でカウントしてしまっているのではないかについては、その後どうなったか。 ITに関する記述が古いため、VRやARなどを盛り込んでどうか。ICTという言葉は現在使われていない。 川越まつり会館や博物館等の映像を、コンテスト形式で市民に募るなど、市民を主体とした観光政策が足りないのではないか。
委員	入込観光客数のカウントは、アルコインというアプリをダウンロードしている人の動きを見ており、男性のダウンロード者数が多く、さらに、ソフトバンクユーザーでアプリを入れている人は３～４％とのことであるため、そもそもの総数が少ないために、正確な割合が取れていないと思われる。
委員	当計画を進めていく際には、庁内だけでなく、第５章の役割分担に記載されている団体、事業者等も、事業の実施主体者となってくるのではないか。当計画の内容を共有し、進捗状況の管理を行ってはどうか。 財源について、現在どこの企業も厳しく、協賛は難しい。昨今お金の集め方も変わってきているため、川越まちづくりファンディングなどを立ち上げ、集まったお金を観光事業者に回してはどうか。
会長	役割がある事業者に対し、具体的にどのようなことを行っても

事務局	raitaiika、計画策定後、周知した方がよい。 観光協会、商工会議所、DMO川越と観光課で話し合う、4者会議を毎月開催している。この会議等を利用して、計画の周知に努めていきたい。 議題 (3)答申について
事務局	<資料を基に説明>
事務局	答申案に含まれている“ICT”の文言については、別の文言に変更する。
会長	答申案において、「第四次川越市総合計画後期基本計画と整合し」と書かれているが、総合計画や観光計画が実現した場合の人口の推移を予想してほしい。このままいけば人口は落ちてしまうところ、落ちないようにするために立てるのが計画である。人口が落ちないような計画となるよう政策企画課に伝えてほしい。 事業の進捗管理などは、外部の事業者等にも報告するのか。
事務局	事業の管理について、今まで庁内のみで行っていたが、外部も含めてPDCAを回していけるか、内部で検討する。 以上